

INFORMATION

卒業生向けの証明書発行について

● 各証明書の種類と手数料

種 類	手数料	備 考
卒業証明書(和文)	200円	
成績証明書(和文)	200円	
大学院修了証明書(和文)	200円	
学位授与証明書	200円	大学院博士後期課程修了者が対象 発行には2週間程度必要となります。 ※申請の際には「学位授与証明書交付願」が、別途必要となります。 ホームページより「学位授与証明書交付願」フォーマットをダウンロードをしてご利用ください。
単位修得証明書(電験・危険物等)	200円	発行依頼の際には、資格名を明記してください。 発行には2週間程度必要となることがありますので、 郵送での申請手続きをお勧めします。
建築士試験 指定科目修得単位・卒業証明書	200円	発行には2週間程度必要となることがありますので、 郵送での申請手続きをお勧めします。
卒業証明書(英文)	600円	
成績証明書(英文)	600円	
大学院修了証明書(英文)	600円	
学力に関する証明書	1,000円	証明書を申請される前に、教務課までお問い合わせください。 発行には2週間程度必要となることがありますので、 郵送での申請手続きをお勧めします。

※上表以外の証明書の発行が必要な場合は事前に教務課までお問い合わせください。 ※厳封を希望する場合は、申請書に明記してください。

「個人情報保護法」の全面施行に伴い各種証明書の発行に際し、本人確認のため身分証明書(運転免許証、パスポート等)の提示や委任状の提出等をお願いしております。

● 郵送による手続き

次の4点の必要書類を同封の上、下記の宛先へ郵送してください。

必要書類	注意事項
1.申請書	ホームページより「証明書交付願」フォーマットをダウンロードしてご利用ください。
2.申請者を証明できるもののコピー	運転免許証、パスポート等のコピー
3.証明書手数料分の定額小為替証書	郵便局で発行 切手では申請できません。
4.返信用封筒	あて先を明記し、 返信用切手を貼付してください。

送付先 〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1
日本大学生産工学部 教務課 宛

※証明書は、申請書類到着後、一両日中に発行し返信用封筒にてお送りいたします。
ただし、郵便事情等もありますので1週間程度の余裕をもって申請してください。

● 窓口での申請手続き

教務課窓口前の証明書自動発行機で申請書を発行し、必要事項を記入の上、窓口申請してください。

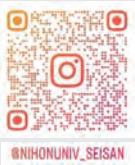
申請先	津田沼キャンパス 1号館 (事務棟) 2階 教務課
取扱時間	月～金曜日 9:00～18:00 土曜日 9:00～13:00 日曜日 利用不可

※上記の取扱時間は、行事等で変更または休止になる場合がありますので、事前にホームページにてご確認ください。

日本大学生産工学部の
ホームページからもご案内しています。
詳細は、ホームページで確認してください。
<https://www.cit.nihon-u.ac.jp/>
電話・FAX・WEB上での申請手続きは行っておりません。



※代理人が申請する場合は、委任状や別途代理人の方の身分証が必要となります。
詳細はホームページで確認してください。



SPR *ing*

日本大学生産工学部【スプリング】2025 3月号

学部長メッセージ Message

FROM THE DEAN

“**社会の激動、急変への対応は
日本大学生産工学部で培った
知識と経験を十分に活用して
「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」を実践してください。**



〔日本大学生産工学部 学部長〕

澤野利章 Toshiaki Sawano

令和6年度、学部卒業生ならびに大学院修了生の皆さん、卒業・修了、誠におめでとうございます。ご家族の皆さまのお慶びもひとしおのことと心よりお慶び申し上げます。

キャンパスライフメモリー

いよいよ社会に飛び立とうとする皆さんへ、学部あるいは大学院、さらには日本大学で過ごしたキャンパスライフは有意義なものとなりましたか。卒業・修了までの学園生活で様々なことを学んだことと思います。

皆さんは幸いにも新型コロナウィルス感染症がやや落ち着きはじめた時期に入学されましたので学園生活はほぼ満喫できたのではないのでしょうか。しかし不安を感じながらの通学や授業だったかもしれません。一方で感染症を期に開発されたさまざまなDXツールを利用した学習も体験できたのではないかと思います。またサークル活動、スポーツ大会、学園祭もこれまでと全く同様に開催することができました。これらは将来、皆さんが友人と大学生活を振り返り思い出を語る時には、大きな話題のひとつになることでしょう。この貴重な経験を十分に活かしつつ、さらには今後の強みとして成長し、活躍されることを期待しております。

日本にひとつ「生産工学部」「生産工学研究科」

皆さんは日本で唯一の「生産工学部」「生産工学研究科」において、本キャンパスにしかない科目である、生産実習をはじめ、技術者倫理、経営管理や他の管理系科目、すなわち生産工学系科目を学んだことと思います。そこで再認識していただきたいことは生産工学部独自のカリキュラムであり、

「経営がわかる技術者」育成の科目を学んだことです。特に強みとして「生産実習」は学生時代の「経験」を重視した実学であり、学生のうちから実社会を体験するという有意義な科目であったと思います。このような学修は日本大学の教育の理念である「自主創造」の、「自ら学ぶ」、「自ら考える」そして「自ら道をひらく」ことに通じるものです。今後も若いときに身に付けた知識・経験と継続的に新たな知識を身に付けて融合しながら、新たな自分の道を切り開き続けてゆくことを心から願っております。

激動・急変の社会状況

2024年の世界では、イスラエル・パレスチナ問題、ロシアのウクライナ侵攻の継続、国内の政治とお金に関する問題、物価高騰、働き方改革などが注目されています。人類共通の継続的な課題としての、カーボンニュートラルや持続可能な世界SDG'sは、ほぼ日常的になり、これらを抜きにしての生活は考えられなくなりました。一方でダイバーシティ推進、情報漏洩への対策、様々なハラスメントに対しても対応を必要とされています。今後はビッグデータと人工知能の研究・開発や検証が進み、生成系AIが誕生し、皆さんの周りでも簡単に使える環境も増えて行く一方で、誕生間もない生成系AIについては、使い方やプライバシー、著作権、データの正確性などの問題も出現しております。働き方が大きく変わろうとする中、本学を卒業・修了する皆さんは、どのような社会環境下においても責任ある行動をとることができる技術者としての素養を十分に発揮してさまざまな目標に挑戦してください。

日本大学の仲間 スケールメリット

卒業・修了後は、日本大学の巨大なスケールメリットを大いに活用してください。

日本大学には130有余年の伝統と歴史、様々な分野にわたる16もの学部、ほかには類を見ない約120万人を超える校友、そして生産工学部にも70年以上の長い歴史と多くの校友がいます。皆さんはこれから新しい校友の仲間入りをします。日本大学や多くの校友には行動を起こせば応えてくれる人が必ずいます。これまでの頑張りは、確実に未来の自分へとつながっています。今後は校友との「絆」をもって、積極的な協同・協働で社会に貢献していただきたいと思います。

日本大学の卒業生・修了生としての誇りと自信を胸に秘め、健康に留意して、失敗を恐れず、ますます活躍されることを心より祈念して「卒業生に贈るメッセージ」といたします。

卒業そして修了おめでとうございます。

CONTENTS

- 02 学部長メッセージ
- 04 『生産実習』が「優秀賞」を受賞
- 06 4年間で心に残ったこと・熱中したこと
- 12 学生の活躍
- 17 卒業生に贈るお祝いの言葉
- 18 学科・系ニュース
- 23 Information

CAREER DESIGN PROGRAM AWARD 2024

マイナビ主催！

『学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード2024』において

生産工学部の教育プログラム『生産実習』が 「優秀賞」を受賞しました！

2024年5月16日(木)にマイナビ主催の『キャリアデザインカンファレンス』が開催されました。今回はその中のイベントである『学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード』において、生産工学部の「生産実習」が受賞した経緯を掲載いたします。

01 キャリアデザインプログラムアワードって？

キャリアデザインプログラムアワードは、学生の社会的・職業的自立に貢献したインターンシップやキャリア形成支援に係る取組を表彰するアワードです。第1次選考は全国の大学生が各プログラムから申請された書類を基に評価し、第2次選考では経済産業省、厚生労働省、文部科学省、マイナビなどから構成された選考委員会で審議されます。2024年に実施された第7回では全国より約1,200法人のプログラムから申請がありました。本学は「独創的なインターンシップを始めとするキャリア形成支援に係るプログラムにより、学生の専攻を考慮したキャリア教育の機会を提供するなど、他社の模範となる取り組みを実施し、その成果が認められる」として優秀賞を受賞しました。



02 生産実習の歴史

インターンシップを授業として開講している大学は、2021年現在で約60%となっており、近年では文部科学省や経済産業省も教育効果の高いものとして推奨しています。しかしながら、必須科目として全ての学生に対してインターンシップを提供している大学は極少数です。生産工学部では創立以来、70年以上も必須科目として生産実習を実施しています。その中で“より良い教育”を提供するため常にプログラムの改善を図ってきました。現在では学生自らの主体性を促し個別最適な実習を支援するため、実習先の選択肢は官公庁から大企業・中小企業を対象として海外や国内の主要都市、地方において様々な職種で多岐にわたる就業体験ができるように約1,000機関を準備しています。海外での実習においては、学生と現地における本学卒業の経営者との交流する機会を設けており、世界各国で活躍する人材と交流を持つことを可能とする卒業生130万人を誇る本学の特徴的なプログラムとなっています。



03 生産実習の魅力

生産実習は、キャリアデザイン教育とエンジニアリングデザイン教育を柱とする生産工学部独自の科目群である生産工学系科目の中核に位置しており、実習を通して幅広い知識と能力を関連付け、技術者像に統合する「カリキュラムの要石」を担います。このプログラムは、3年次の4月から12月まで事前学習、実習、事後学習および成果発表会と年間を通して目標設定、経験、省察を合計100時間以上で繰り返します。その中で本学が独自に開発した・「生産実習NOTES」による自己学習と「生産実習SYSTEM」によるプラットフォームを活用したフィードバックや事後学習が充実しており、学生自身で効果検証ができる高い教育効果のあるプログラムと評価されています。このプログラムを受講した学生は独自性理解や自己効力感、自己変革が促され、特に主体性、実行力、創造力が大きく向上しています。受講生アンケートでは85%の学生が生産実習に満足であると回答し、92.3%の学生が、またプログラムに参加したいとしています。



卒業生に聞きました！



4年間で心に残ったこと・熱中したこと

つらいことも楽しいことも盛りだくさんの大学生活は、かけがえのない財産。
今回は、今年卒業を迎える4年生に、在学中で心に残ったことや熱中したことを聞いてみました。



私立東葉高等学校出身



千葉県立鎌ヶ谷高等学校出身



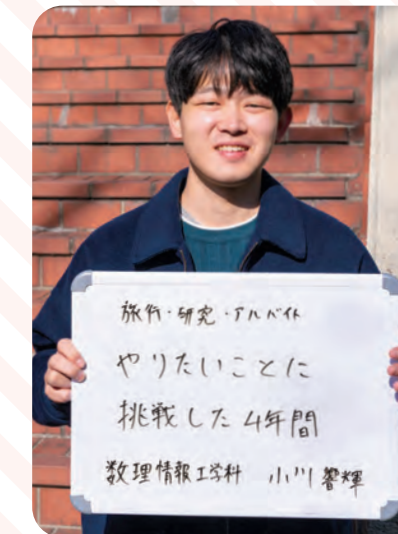
私立修徳高等学校出身



栃木県立宇都宮中央女子高等学校出身



千葉県立検見川高等学校出身



千葉県立千葉商業高等学校出身



神奈川県立住吉高等学校出身



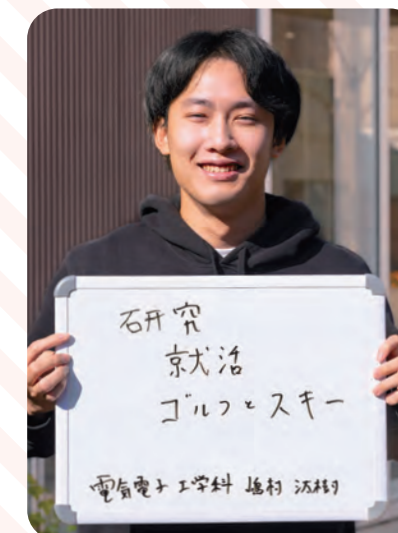
埼玉県立与野高等学校出身



私立日本大学第二高等学校出身



私立村田女子高等学校出身



私立京華高等学校出身



埼玉県立熊谷高等学校出身



私立成田高等学校出身



私立水城高等学校出身



私立常磐大学高等学校出身



千葉県立木更津高等学校出身



大連工業大学付属高等学校出身

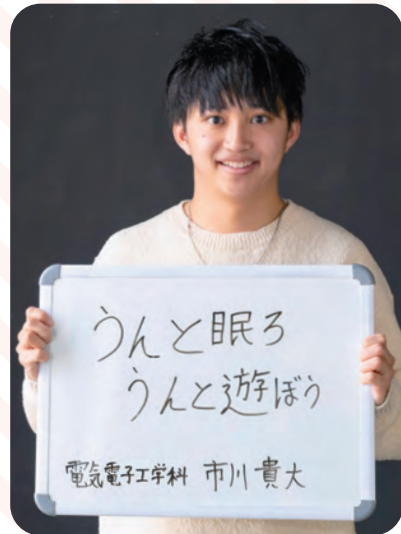


千葉県立千葉北高等学校出身

卒業生に聞きました！



4年間で心に残ったこと・熱中したこと



東京都立小岩高等学校出身



私立日本大学第一高等学校出身



松戸市立松戸高等学校出身



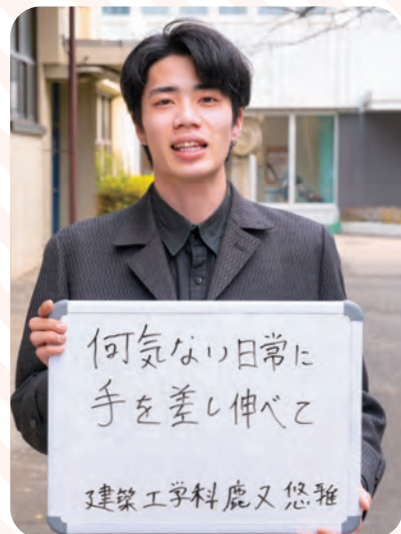
茨城県立勝田高等学校出身



私立日本体育大学柏高等学校出身



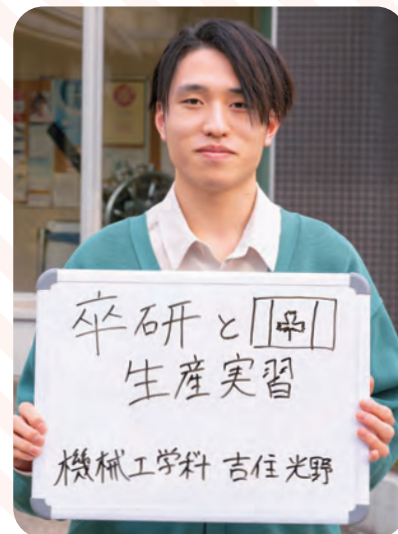
私立多摩大学目黒高等学校出身



神奈川県立神奈川工業高等学校出身



千葉県立千葉女子高等学校出身



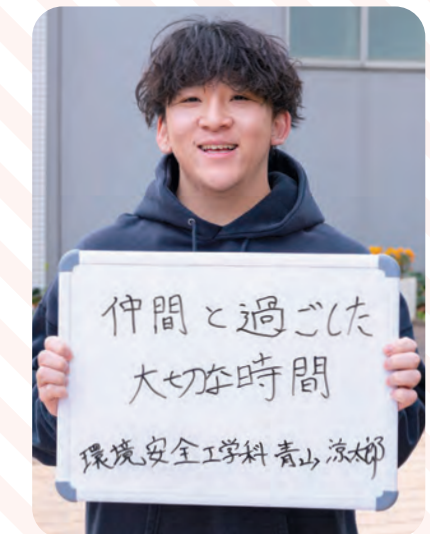
神奈川県立横浜平沼高等学校出身



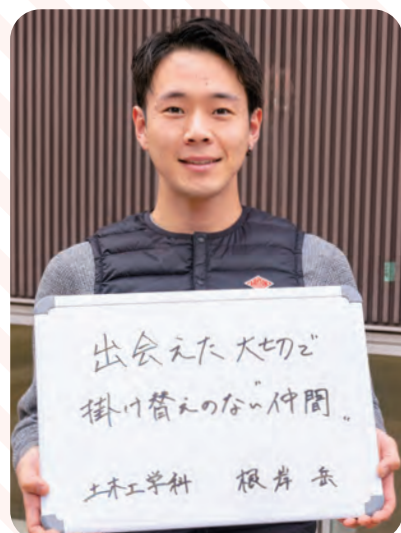
私立日本大学三島高等学校出身



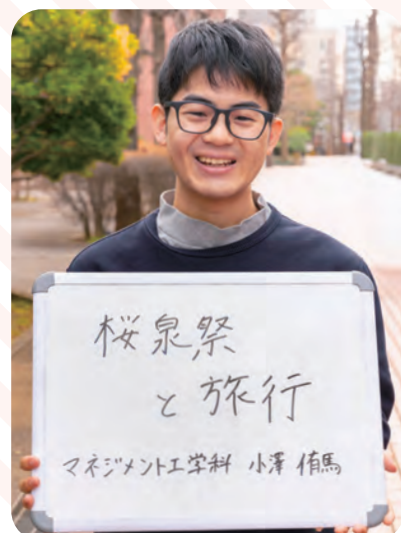
千葉市立千葉高等学校出身



私立水城高等学校出身



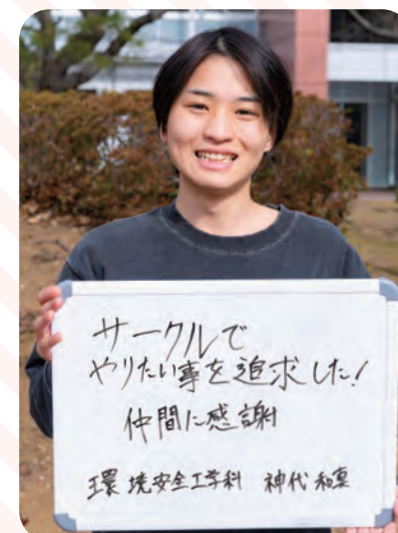
私立日本大学鶴ヶ丘高等学校出身



群馬県立中央中等教育学校出身



千葉県立市川工業高等学校出身



千葉県立佐倉高等学校出身



埼玉県立本庄高等学校出身



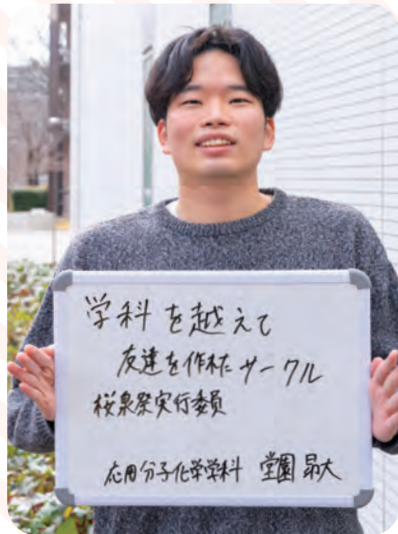
千葉県立柏陵高等学校出身

卒業生に聞きました！

この4年間を
忘れません！



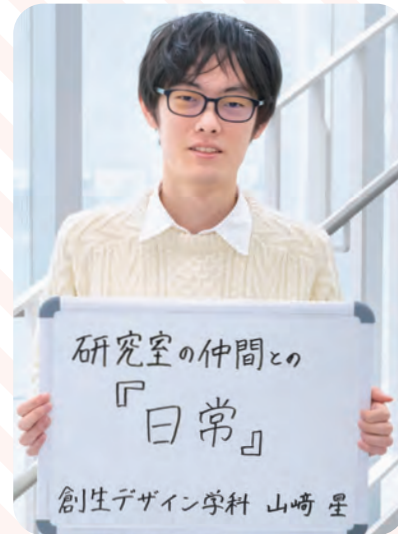
4年間で心に残ったこと・熱中したこと



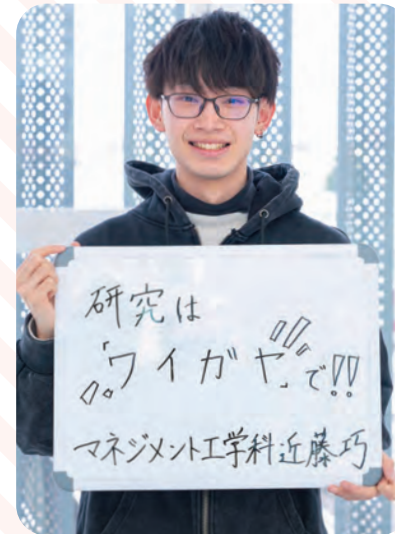
私立浦和実業学園高等学校出身



千葉県立匝瑳高等学校出身



私立昭和学院高等学校出身



私立千葉商科大学付属高等学校出身



私立日本大学櫻丘高等学校出身



私立日本大学豊山高等学校出身



埼玉県立川口北高等学校出身



私立日本大学三島高等学校出身



茨城県立日立第一高等学校出身



私立日本体育大学柏高等学校出身



北海道立大森高等学校出身



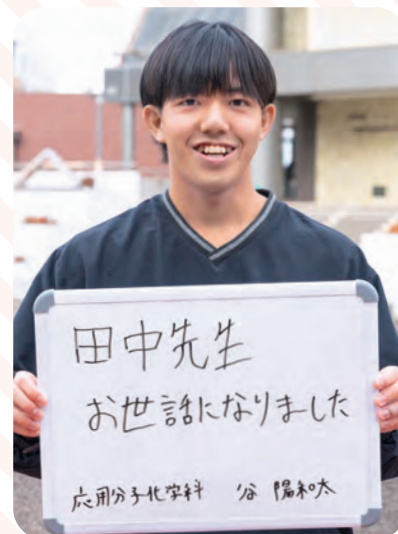
千葉市立稻毛高等学校出身



神奈川県立座間高等学校出身



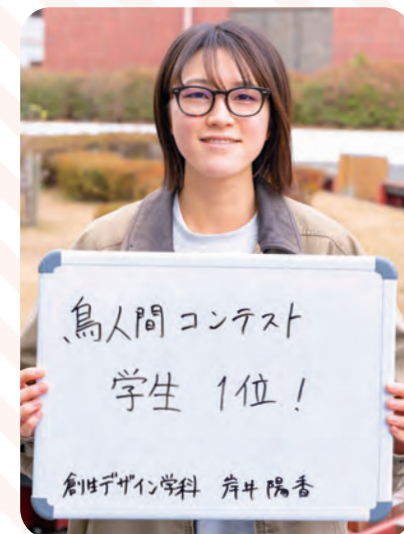
埼玉県立川口北高等学校出身



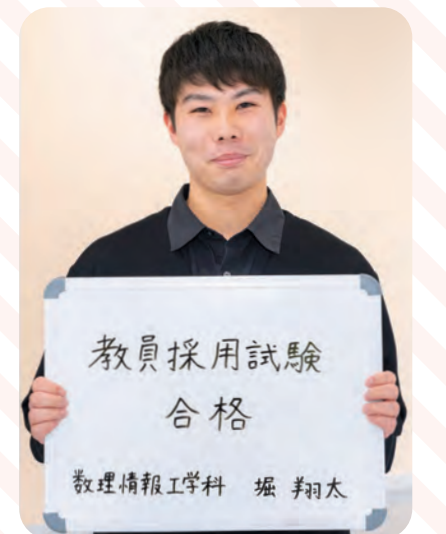
横須賀市立横須賀総合高等学校出身



私立城北埼玉高等学校出身



私立下北沢成徳高等学校出身



茨城県立水海道第一高等学校出身



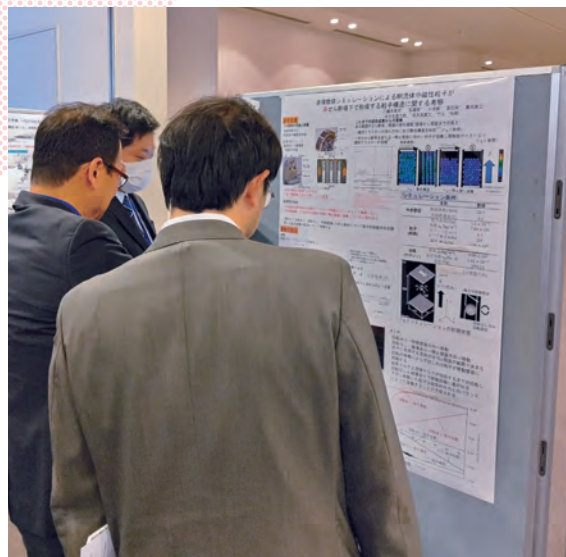
学生の活躍

Activities of Students

第18回 日本磁気科学会 ポスター賞受賞

【機械工学専攻】
藤井 亮河 Ryoga Fujii

11月18日～20日に山形県山形市で開催された第18回日本磁気科学会で、機械工学専攻修士2年、安藤研究室の藤井亮河さんが「直接数値シミュレーションによるMR流体中磁性粒子がせん断場下で形成する粒子構造に関する考察」について発表し、ポスター賞を受賞しました。全国から16件が参加し、受賞3件のうちの1件として選出されました。おめでとうございます。



賞の受賞、論文掲載、部活動での入賞など、
学生たちは数々の課外活動で、
目覚ましい活躍を遂げています。
ここではそんな学生たちの主な実績を紹介していきます。

6年ぶりの全種目完走!! 学生フォーミュラ

【電気電子工学科】
小林 陽太 Yota Kobayashi

私は自動車技術会が主催する学生フォーミュラ日本大会に参加しました。長年の目標であった全種目完走を6年ぶりに達成し、チームとして大きく前進することができました。チーム全員で作上げた車両が走る姿には感無量で、最高の経験ができました。



2024 IHI/SAMPE Japan 学生ブリッジコンテスト優勝

【機械工学科】
松浦 玲斗 Retsu Matsuura
小倉 慎ノ介 Shinnosuke Ogura
【機械工学専攻】
杉山 颯 Hayate Sugiyama 安藤 佑磨 Yuma Ando
能勢 祐治 Yuji Nose

令和6年9月19日に東京ビックサイトで開催された2024 IHI/SAMPE Japan学生ブリッジコンテストで優勝し、令和7年5月に米国で開催される世界大会への切符を手に入れました。

本コンテストは、材料・構造力学を学ぶ学生がレギュレーションに基づき炭素繊維強化複合材料(CFRP)でブリッジを設計・製作し、強度と軽量性の両方を競う大会です。必ず世界一になってきます。



環境情報科学 学術研究論文集38への掲載

【土工学専攻】
土井 和希 Kazuki Doi

一般社団法人環境科学センターが発行している「環境情報科学学術研究論文集38」に土井和希さんの論文「塩分で馴致した活性汚泥の高濃度塩分含有排水の処理能力とその菌叢の特徴」が掲載され、2024年12月に「環境情報科学研究発表大会」で発表しました。この研究では高濃度の塩分環境下でも適正に馴致することで生物処理が可能なことを示し、菌叢解析を行っています。



グッドデザイン賞2024と ウッドデザイン賞2024をW受賞

【土工学専攻】
小田部 匠 Takumi Kotabe 門脇 暦 Koyomi Kadowaki
齋藤 政宗 Masamune Saito 田中 尚吾 Shogo Tanaka

環境安全工学科永村研究室がJR柳ヶ浦駅周辺地区整備プロジェクトでグッドデザイン賞2024とウッドデザイン賞2024を受賞しました。2017年度以来、学生たちは宇佐役所や専門家チームと連携し、市民参加型の企画を展開。駅舎での展示会やリニューアルイベントなどを通じて地域活性化に貢献しました。このプロジェクトに携わった歴代の学生さん、受賞おめでとうございます。



Activities of Students

多くの建築設計コンペにおいて入賞

【建築工学専攻】

赤石 健太 Kenta Akaishi

赤石健太さんは、「日本建築学会設計競技」において、2023年・2024年の2年連続で入賞を果たしました。また、アイデアコンペ「フェーズフリーアワード2024」でも入賞を達成しています。さらに、全国から203件応募の「歴史的空間再編コンペティション2023」では第9位に入賞し、その実力を発揮しました。研究においても、第56回日本大学生産工学部学術講演会において「学生優秀発表賞」を受賞し、研究と設計競技の両面で高い評価を受けています。



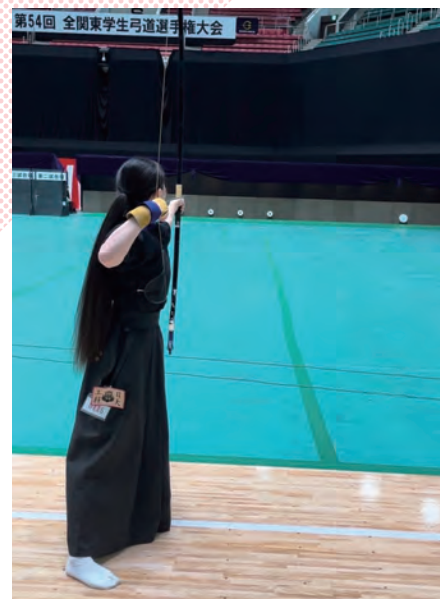
第54回全関東弓道選手権

大会女子個人戦で準優勝！

【創生デザイン学科】

酒井 景菜 Keina Sakai

生産工学部の弓道部所属で、創生デザイン学科4年生の酒井景菜さんが、2024年6月15、16日に日本武道館で行われた第54回全関東弓道選手権大会の女子個人戦で、準優勝しました。おめでとうございます！



2023年度化学工学会

第54回秋季大会において優秀発表賞を受賞

【応用分子化学専攻】

夏堀 龍聖 Ryusei Natsuhori

(M1)2023年度化学工学会第54回秋季大会 分離プロセス部会では優秀発表賞を受賞し、(M2)2024年度日本海水学会第75年会技術交流セッションでは黒潮賞を受賞しました。M1では超塩基と複素環アミン類で構成される混合溶液のCO₂吸収能力と粘性の評価、M2ではアミン水溶液を用いた浸透圧発電によるエネルギー再生に関する研究発表を行い、CCUS技術の確立に向けた2つの研究内容が評価されました。

M1の研究概要は「超塩基と複素環アミン類の混合溶液を用いた二酸化炭素吸収剤に関する二酸化炭素吸収能力および粘性の評価」です。
M2の研究概要は「CCUS技術の確立に向けたCO₂吸収剤の開発と浸透圧発電によるエネルギー回収」です。



ベテランによる診断をAIの機械学習で実現

【マネジメント工学専攻】

行木 靖人 Seito Nameki

トンネル照明の点検にAIを活用するシステムを企業と共同研究し、その成果が学会の査読論文に2編掲載されました。また、日本大学本部のHP改修プロジェクトにも、学生オブザーバーとして参画したことで、多角的な経験を積むことができました。

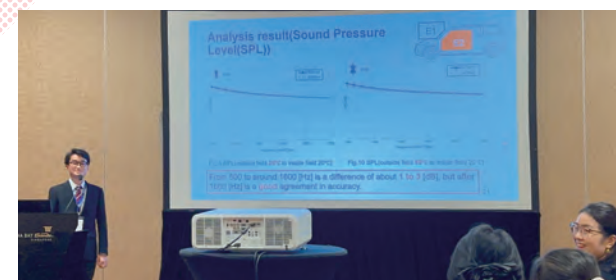


大学院生が国際会議で発表

【数理情報工学専攻】

外山 隆太 Ryuta Toyama

修士1年生の外山隆太さんが、「自動車用遮音ガラスのモデリングに関する研究」について、シンガポールで開催された国際会議ICCES2024で発表しました。英語による初めての発表でしたが、質疑応答まで自力でこなし、聴衆の反応もとても良く、非常に有意義な発表となりました。



Activities of Students

SIGGRAPH Asia 2024に 学生ボランティアとして参加

【数理工学学科】
藤井 和希 Kazuki Fujii

2024年12月3日から4日間、東京国際フォーラムで開催されたSIGGRAPH Asia 2024に、藤井和希さんが学生ボランティアとして参加しました。主な業務として、会場入口での入室管理を担当しました。多くの外国人と慣れない英語でコミュニケーションを取る場面もありましたが、これまでの経験を最大限に活かし、無事に乗り切ることができました。学会も大きな問題なく成功裏に終了できたと感じています。



山形県でのボランティア活動中の写真

様々な技術系資格を取得し、社会貢献

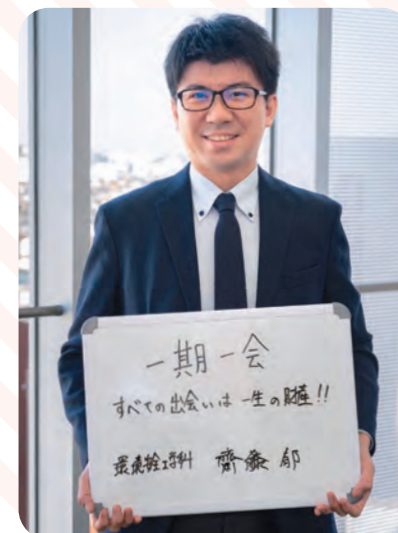
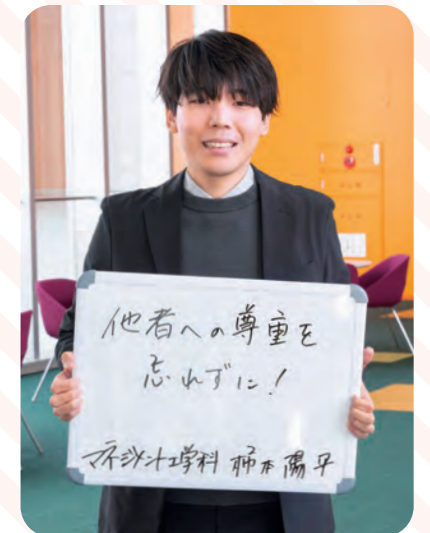
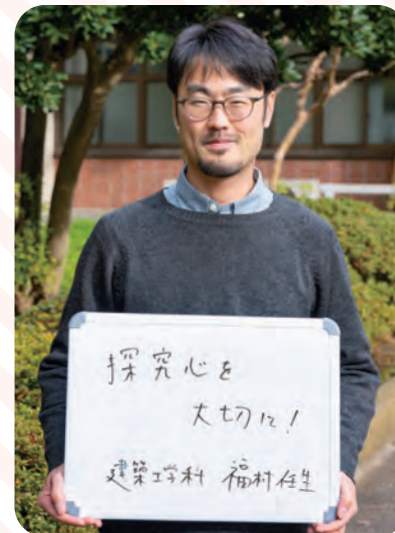
【土木工学科】
飯田 志冴 Shingo Iita

大学在学中、国家資格の技術士第一次試験（建設部門）合格をはじめ、建設工事の適正な施工の実施に必要な1級土木施工管理検定（第一次検定）に合格した他、重機やドローンの操縦などの技能系の資格を取得しました。取得した資格は、建設現場でのアルバイトや、技術系の災害ボランティア活動に取り組むなど、社会貢献に役立てています。

先生方に聞きました！

卒業生に贈るお祝いの言葉

生産工学部が誇る数多くの先生方から、卒業生へ贈る言葉をいただきました。



機械工学科



NICHIDAI.SEISAN.KIKAI

デジタルものづくりスペース新設

12号館105室にデジタルものづくりができるスペースを新設しました。3Dプリンタ10台とレーザ加工機3台、マシニングセンタ1台を自由に使うことができます。昨年度から始まったオープンデイ(3月20日に実施)でも、このデジタルものづくりスペースを一般公開しました。参加者の皆様には記念品を作成していただくワークショップを実施し、主にレーザ加工機を活用して、キーホルダーやコースターなどを作成していただきました。当日の様子は機械工学科のInstagram(nichidai.seisan.kikai)や学科HPでも紹介しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

プロジェクト演習・実践ものづくりI・IIなどのPBL(Project Based Learning)授業を中心に活用しております。



土木工学科



@SEISANDOBOK

海外生産実習を通じ、国際的に活躍するエンジニアを育成!

昨年度のカナダ・バンクーバーにおける海外生産実習の成功を踏まえ、今年度はベトナム・ハノイにおいても新たな実習プログラムを展開しました。

今回のプログラムは、大成ロテック株式会社様、同社ベトナム支社様のご協力のもと、国内の本社、プラント、技術センターにおいて技術者としての安全と倫理、実務の基本などを学ぶ5日間の事前・事後実習、ベトナム・ハノイを拠点に施工管理を経験する17日間の現場実習により構成され、当学科より3年生4名がお世話になりました。現場実習では現地プロジェクトマネージャーにご指導いただき、実習生は英語で積極的にコミュニケーションを図りつつ、海外工事ならではの様々な苦労も乗り越えながら施工管理の基礎とやりがいを知ることができました。

ベトナム・ハノイは開発・発展の最中にあるばかりでなく、治安が良好で、物価が安く、食事も美味しいといった利点があり、将来の土木技術者にとって理想的な実習環境であったと考えています。行きは台風7号、帰りは台風10号に見舞われましたが、全員が無事にプログラムを完遂し、専門的な知識・技能の醸成に加え、国際的な視野も広げることができたと言えるでしょう。ご支援いただいた皆様には、ここに改めて深く感謝申し上げます。



新たな学習環境を活かし、学生の交流と学び合いを活性化!

今年度、土木工学科では新たな学習施設「土木工学科イノベーション・commons」を様々な授業や行事、さらに中高生への模擬授業等でフル活用し、学生の交流と学び合いを活性化しています。

2年次キャリアデザイン演習においては、4回にわたって計12名の卒業生をcommonsにお招きし、学生時代の実習・就活等体験談、仕事の苦労とやりがいなどを後輩たちに向けてご講演いただきました。各回とも講演後には、先輩たちを囲んで座談会を開催し、次つぎと活発な質疑・情報・意見交換がなされたことにcommonsの価値を感じています。そのほか、初年次教育等のグループワークにおいても教室以上に議論が活性化の様子がみられ、今後も新たな学習環境を活かした教育開発・改善の可能性に大いに期待します。



電気電子工学科



@NIHON_U.AC.IP.CIT.EE

体験型ワークショップ「ひらめき☆ときめきサイエンス」を開催

11月3日に文部科学省に採択された「水素燃料電池自動車の充電と新ブレーキ技術」に関する研究テーマを高校生などが直に見る、聞く、触れることで、科学のおもしろさを感じてもらおうワークショップを開催しました。



研究成果

皆川裕貴助手、荒巻光利教授らの成果「光渦によるドップラー分光法の測定自由度の拡張」が、日本光学会の学会誌「光学」第53巻第6号に、2023年の日本の光学研究を代表する成果として掲載されました。

建築工学科



@NICHIDAI.SEISAN.KENCHIKU

生産実習「公募企業・団体学生説明会」および「キャリアサポート2024」が開催されました

5月16日、23日、30日には対面形式、6月6日にはオンライン形式にて、建築工学科主催の生産実習「公募企業・団体学生説明会」および「キャリアサポート2024」を同時開催しました。

本イベントは、学部3年生および大学院1年生を対象として実施され、特に3年生にとっては、生産実習に取り組む企業を研究する貴重な機会となりました。今回は160社以上の企業にご参加いただき、多くの学生が熱心に説明に耳を傾け、企業研究に真剣に取り組む姿が見られました。



1年生現場見学会を実施しました

11月13日(水)、建築工学科1年生を対象に、建築ものづくりの最前線である建設現場を見学する現場見学会を実施しました。本見学会は、座学で学んだ内容と実際の現場とのつながりを理解し、建築をより広い視野で捉える機会を提供することを目的としています。当日は、株式会社鴻池組、株式会社安藤・間、株式会社熊谷組、東急建設株式会社の計4社にご協力いただき、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の新築工事現場10か所にて、躯体工事や仕上げ工事の様子を見学しました。1年生にとって、実際の建設現場を直接見学することは、建築を学ぶ上で非常に重要であり、今回の見学会は、今後の学修や将来の進路を考えるうえで貴重な機会となったのではないのでしょうか。



給付型奨学金採択・国家試験合格・受賞

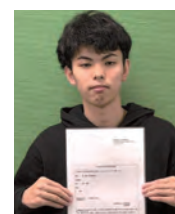
本学科小川研究室4年生の岡部優希さんが、給付型奨学金事業を実施している公益財団法人クリハラント記念財団の奨学生に採用されました。

また、本学科石澤・野呂研究室4年生の中村海稀さんが国家資格の第一級陸上特殊無線技士に合格しました。

さらに、本専攻佐々木研究室博士前期課程2年生の古田原拓実さんが、「ケルビンヘルムホルツ乱流におけるデータ駆動的手法を用いた突発粒子輸送解析」という論文タイトルで日本物理学会学生優秀発表賞を受賞しました。



岡部 優希さん



中村 海稀さん



古田原 拓実さん

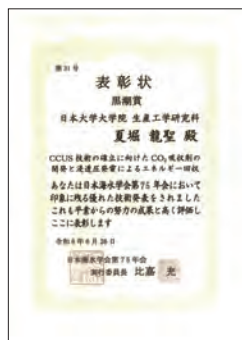
応用分子化学科



NICHIDAI.SEISAN.OUKA

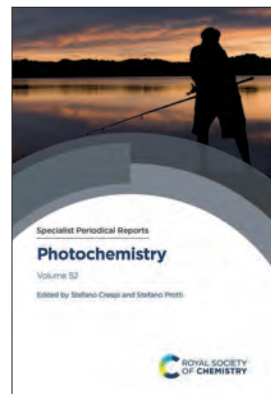
学会発表において発表賞を受賞

応用分子化学専攻の学生2名が学会発表において発表賞を受賞しました。博士前期課程2年生の夏堀龍聖さん(指導教員 保科先生)が令和6年6月26日～27日に開催された日本海水学会第75年会技術交流セッションにおいて最優秀ポスター賞を、博士前期課程1年生の安田弥奈さん(指導教員 吉宗先生)が令和6年8月24日～25日に開催された日本生物高分子学会2024年度大会において優秀発表賞を受賞しました。大学院生を中心に所属学会において研究成果を活発に発表しています。



「Photochemistry」に 津野 孝教授による論文解説が掲載

イギリス王立化学会が発刊している50年以上の歴史のあるシリーズ本「Photochemistry」に、応用分子化学科の津野孝教授による論文解説が掲載されました。執筆した章は、2022年1月から2023年12月までの期間に公表された、炭素-炭素二重結合を有する化合物の光化学に関する論文の中から、特に注目されるものを抽出(500報)し、解説した内容となっています。



数理情報工学科



NUSURIJOUHOU

桜泉祭お神輿巡行

2024年11月3日(日)、生産工学部桜泉祭のメインイベントであるお神輿巡行が行われました。今年は中村研究室が主体となりお神輿を制作し、各研究室の3年生が担ぎ手を務めました。2011年に数理情報工学科の神輿が復活してから今年で13年目を迎えます。一時期は担ぎ手が減少したものの、近年では非常に多くの学生が集まり、全学科の中でも大変な盛り上がりを見せました。また、数理情報工学科の校友会(OB・OG)の皆様からは、法被や特大うちわ、お弁当などのご支援をいただきました。校友会の皆様、本当にありがとうございました。



令和6年度日本大学生産工学部 校友会数理情報部会懇親会

2024年11月9日(土)、生産工学部校友会数理情報部会懇親会が校門会館(市ヶ谷)にて開催されました。1980年の卒業生から在学生まで、幅広い年代の方々にご参加いただきました。毎年好評のお楽しみコンテンツとして「ワードウルフ」を実施しました。初めて組んだメンバー同士で優勝を目指し、ゲームに集中する様子がとても印象的でした。新卒業生の皆様や既卒の方々も、お世話になった先生方と再会できる良い機会ですので、次回以降是非ご参加ください。



マネジメント工学科



NIHONUNIV_MANAG

AIによる地元店舗の地域創生とSDGsフードロス問題に貢献

マネジメント工学科は技術と経営が学べるのが特徴で、実際に企業との共同研究をしている先生も多くいます。地元の地域創生の例を挙げると、実籾駅にMELON LAB.xDANISH LAB. 実籾店というメロンパン店があります。

現在このメロンパン店でAIを活用する共同研究を行なっています。メロンパン店の店頭で、24時間365日、AIがプライバシーを保護しながら、年齢・性別も判断して毎時刻の通行人数をカウントしています。これを基に未来の売上数を高精度に予測してSDGsのフードロス問題に貢献します。そして店長さんがいなくても、明日のパンの仕込み数をAIが自動推定するようにして、パートやアルバイトさんだけでも店舗運営が出来るようにします。この他にも様々な取り組みをしていますが、最新情報は、ホームページやInstagram、Xなどでも配信しています。



環境安全工学科



KANKYO_ANZEN

2024年桜泉祭の神輿行列へのご支援ありがとうございました

環境安全工学科より、3つの受賞(神輿グランプリの受賞、無機マテリアル学会優秀賞講演奨励賞、グッドデザイン賞とウッドデザイン賞)について報告いたします。

2024年桜泉祭における神輿行列に参加し、今年も無事に神輿グランプリを受賞することができました。毎年連覇を重ねてきた環境安全工学科のお神輿ですが、他の学科、団体のレベルも毎年高まっていることを受けて、今年は装飾品の擬宝珠(ぎぼし)をきらびやかにすることに取り組みました。そこで学科の古川先生のご協力のもと、光造形3Dプリンターで造形した擬宝珠を作成し、その表面に銅を無電解メッキして取り付けました。その無電解メッキが実は難しく、造形物の表面の粗さが製膜に強い影響があることが判明したため、ぎりぎりまで表面を研磨して製作し、なんとか当日を迎えました。良い結果に終わることができて本当に良かったです。



外山先生が無機マテリアル学会にて優秀賞講演奨励賞を受賞

外山先生が11月8、9日に開催された無機マテリアル学会第149回学術講演会で優秀賞講演奨励賞を受賞しました。講演は、国立研究開発法人物質・材料研究機構との共同成果で水素化物からの水素生成を促進する触媒材料の開発に関する内容です。従来の触媒材料と比較して大幅に水素生成量を増加させることに成功しました。本成果は、上記の賞に加えて化学情報協会のJAICI賞も受賞されました。各教員の研究成果や活動についてホームページで公表していきますので、ぜひご覧ください。



永村研究室がグッドデザイン賞・ウッドデザイン賞をダブル受賞

永村研究室が取り組んできたJR柳ヶ浦駅周辺地区整備プロジェクトが、グッドデザイン賞2024(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)とウッドデザイン賞2024(主催:一般社団法人日本ウッドデザイン協会)をW受賞しました。空間デザインと地方駅での賑わいづくりへの挑戦や、市地元住民や高校生との共創による駅前広場の木質化のプロセスなどが評価されました。研究室では2017年から、JR柳ヶ浦駅周辺地区整備プロジェクトにて市民参画のコーディネートを担当し、宇佐市役所や設計ワーキンググループ(専門家チーム)とともに、ワークショップなど市民との対話・協働の場づくりを担当、駅舎・駅前広場の利活用促進や賑わいづくりに取り組んできました。



創生デザイン学科



@NUCO.CIT

千葉市花見川団地を拠点に、 課題発見・提案活動や地域イベントを通じた地域連携を推進

創生デザイン学科では、地域と連携したデザイン教育 (PBL) の実践として、千葉市花見川団地を拠点とした地域生活圏の活性化をテーマとし、様々な形で展開しています。

成果の一環として花見川団地「第25回 100円商店街」に3つの展示やイベントで参加しました。

●デザイン制作展

創生デザイン学科の学生が取り組んだ、団地活性化のプロジェクトの成果を展示しました。

(2年次設置科目プロトタイプング演習、3年次設置科目「デザイン製図2」：パネルと模型による展示。岩崎研究室、鳥居塚研究室、吉田研究室：団地活性化の提案をパネル展示)



デザイン制作展(2年次設置科目プロトタイプング演習 他)

●日大写真館

創生デザイン学科 Sct. (創生クリエイティブチーム) メンバーによる写真館、写真撮影会を行いました。約80組の写真を撮りました。



日大写真館 簡易スタジオを仮設し、主に家族の笑顔を取りました

●デジタル工作ワークショップ

創生デザイン学科 ファブトラ活用委員会のデジタルファブリケーションのワークショップを行いました。小中学生を対象に、学生と一緒に工作を試みました。花見川団地商店街で10時～16時まで実施し、各イベント大盛況でした。



デジタルファブリケーション(デジタルプロッター)で
カライドサイクルを作成しました

日本大学生産工学部校友会の紹介

生産工学部の発足は現在の理工学部工業経営学科が新設された昭和27年にさかのぼります。そして、現在の生産工学部の名称になったのが昭和43年です。生産工学部校友会も生産工学部とともに歩んできました。昭和34年に教員と校友の親睦会が発足したのが始まりになります。翌年の昭和35年に「校門工経会」の名称で校友会が発足し、昭和47年に現在の生産工学部校友会に名称が変更になりました。日本大学全体の卒業生は127万人を数えます。生産工学部校友会の卒業生も9万人を超え、様々な分野で、また、世界で活躍しています。大学を卒業しても校友会が卒業生と大学を強い「絆」で結んでいます。

学園祭のときには「母校を訪ねる会」を校友会と生産工学部が共同で開催しており、卒業後10年毎のOBOGを招待し、後輩たちの活躍を見てもらっています。新型コロナウイルスの関係で数年間実施が出来ていなかったため昭和47年、48年、57年、58年、平成4年、5年、14年、15年、24年、25年の卒業生と教職員OBの方々をご招待致しました。当日はお天気にもめぐまれ、招待年、及びその他の卒業生161名、教員OB14名、校友会役員、学部執行部、現任教職員含め200名以上の皆様に参加頂きました。

校友会の主な活動を記します。まず、日本大学生産工学部校友会誌として、「桜生工」を年に1回発行しており、毎回、様々な特集とともに、校友会代議員総会の様子や各学科の近況、学内行事などについて掲載しています。

その他にも様々な活動を行っており、そのいくつかを紹介します。生産工学部には多くのサークルがあり、その活動資金の一部を校友会が補助しています。また、各学科にも活動資金の支援を行っており、その活動費の一部は在学生や大学院生の学会発表などの補助に使われています。その他、鳥人間コンテストや風力発電コンペ(WINCOM)、キャンパスガイド表紙の審査および記念品、新入生や優秀卒業生への記念品など、数多くの支援をしています。生産実習の受け入れ企業や就職活動にも校友会が一役を担っています。

数ある支援の中で一番大きな支援は寄付金による学部支援です。特に、生産工学部奨学金基金は校友会奨学金として、経済的理由から修学困難な学生に対して有効に使われています。その対応の一環として、これまでに生産工学部校友会から学部への寄付金は従来の生産工学部奨学金を含めて1億7000万円になります。

各部会でも学園生活を充実させるための支援をしており、学園祭のときに実施される神輿行列に使用する法被や研究室対抗スポーツ大会の運用資金等を応援しています。

このように、生産工学部と校友会は車輪の両輪のごとく協力しながら、生産工学部の学生を支援しています。

日本大学生産工学部校友会ではホームページも開設しているもので、是非、時間のあるときにご覧ください。また2号館の1階に校友会室がありますのでお時間があるときには気軽にお立ち寄りください。

生産工学部校友会ホームページ:<http://seisan.nihon-u-koyukai.com/>

皆さんも、卒業したら校友会活動に参加し、後輩や母校のため、そして、自身の活動範囲を広げてはみませんか。



教養・基礎科学系

朝本先生が オーストラリアUTSに半年間滞在

朝本紘充先生は2024年6月29日から12月26日までのおよそ半年間、中期海外派遣研究員としてオーストラリア連邦のシドニー工科大学(UTS)に滞在しました。研究課題は「高速液体クロマトグラフィー(HPLC)における分離場としての樹脂製中空カラムの精度評価に関する研究」です。具体的には、アルツハイマー型認知症の原因物質とされるアミロイドβタンパク質凝集体の新たなHPLC分析法を確立すべく、同大学のMatthew P. Padula博士の協力を得ながら研究活動に従事しました。ご本人曰く、多文化主義を掲げる同国には本当に多くの国と地域から研究者・学生が集まっており、言語や文化の壁を越えてお互いを尊重し合いながらプロジェクトを進めていく姿勢にとても感銘を覚えたそうです。



UTSのシンボリックな建造物群を臨む
キャンパスの中庭にて

実叅校舎の2つの施設がリニューアル

図書館では、人生の基礎となる自ら考える力と自ら学ぶ力を身につけてほしいとの願いから、「リベラルアーツコーナー」を設けています。学生の視野を広げて真の教養にたどり着いてもらおうと、この図書の推薦は、まずは教養・基礎科学系の教員が当たりました。人生の考え方を示唆するもの、生きる上でのヒントになる先人たちの英知を記したものなど、多様な書籍が、教員の推薦ポップを添えて並んでいます。このコーナーの図書の借り出しも日に日に盛んになっています。

令和5年9月から行われた実叅校舎陸上グラウンドの改修工事が令和6年3月に終了し、同年4月より新しく生まれ変わりました。広々とした人工芝のフィールド内ではサッカーやラグビーを安全に心地よくプレーできるようになりました。また、タータン8レーンの400mトラックはとても走りやすく、普段よりも良いタイムを出すことが出来るそうです。令和6年度は、1年生の体育実技や部活動、またスポーツ大会もこちらで行われ、毎日元気な声が聞かれています。



WINCOM2024



母校を訪ねる会



代議員総会



神輿行列